

中村 三春

北海道大学 文学研究院
言語文学専攻 映像・表現文化論講座
教授

北海道大学 前期提供科目

芸術と文学

(《新解釈》現代文芸の研究)

授業概要

日本の現代文芸作品を、最新の研究動向に沿って読み解き、文芸研究の手法を学ぶとともに、言葉と人間と世界との関わりについての知識と思考を深める。

到達目標

日本現代の小説・詩・童話を自分で読み解く能力を身につけ、その結果としての分析と批評をまとめた感想レポート、および論文レポートを執筆し、文芸解釈の結果を明確かつ具体的に表現できる。

成績評価

【基準】 平常点：毎回の感想レポートの提出の有無によって評価する。

期末評価：平常点に加え、期末レポートの内容的水準によって評価する。

【方法】 感想レポート 30%
期末レポート 70%
いずれもELMS（教育情報システム）を利用して提出する。

授業計画

(〈 〉内は主に取り上げる作品)

ガイダンス 日本現代文芸の読み方 (第1回)

1 パラドックス：宮澤賢治の詩と童話 (第2回～第4回) 〈「薙露青」「銀河鉄道の夜」〉
宮澤賢治の多くの作品は草稿のまま残され、大半は未完成であった。「薙露青」は一度完成され、その後消しゴムで消され、「銀河鉄道の夜」も結局完成しなかった。宮澤作品におけるパラドックスの様相をさぐる。

2 メタフィクション：太宰治の小説 (第5回～第7回) 〈「道化の華」「創生記」〉
破滅型・下降型という見方は古くさい紋切り型に過ぎない。太宰治の作品は、小説が小説ジャンルそのものに対する批評となるような、メタフィクション (小説についての小説) にほかならない。

3 愛着障害の物語：村上春樹の軌跡 (第8回～第11回) 〈『ノルウェイの森』『騎士団長殺し』〉
村上春樹の小説は、他人を愛する術を知らない人間が、社会生活の中で他人と関係を持った時に何が起こるのかを追求し続けている。初期作品から現在までの村上文芸の展開を追跡する。

4 ホロコーストの記憶：小川洋子の最近の作品 (第12回～第15回) 〈『猫を抱えて象と泳ぐ』『琥珀のまたたき』〉
『アンネの日記』に傾倒して作家となった小川洋子の小説は、いわば「ホロコーストなきホロコースト文学」である。小川と『アンネの日記』との関わりを解説し、最近作をその観点から論じる。